




## 第2章

# 事業の沿革と概要

- 2-1 事業のあゆみ
  - 2-2 事業の規模
  - 2-3 主な施設の概要
  - 2-4 浄水処理
- 



## 第2章 事業の沿革と概要

### 2-1 事業のあゆみ

本市水道事業は、昭和2年(1927年)に吹田町営水道として始まりました。その頃の人口は約2万人、給水人口は約6千人、普及率はようやく30%で、まだほとんどの家では川や井戸の水を使用していました。

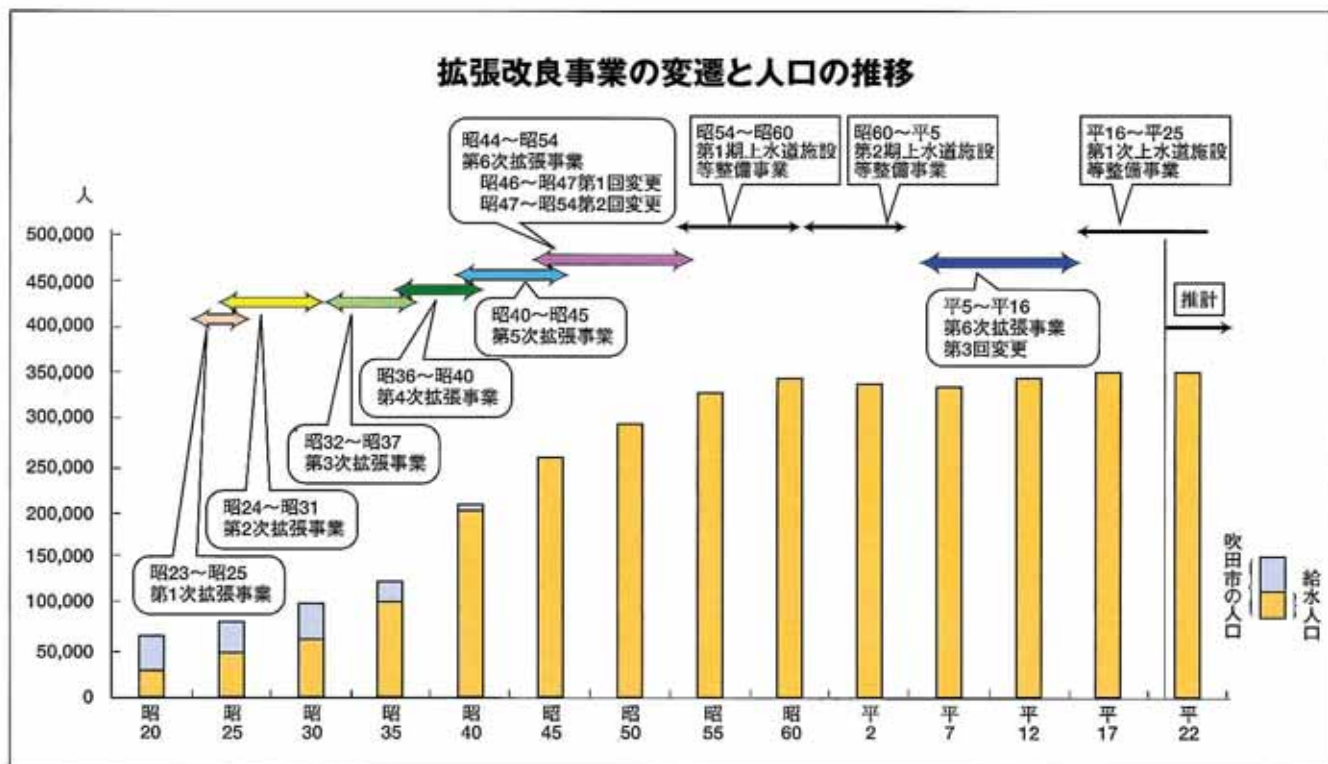
その後、昭和15年(1940年)には、隣接の4町村が合併して市制が施行され、戦後、千里山地区(千里山水道)・豊津地区(阪北上水道)の簡易水道\*を吸収して、総合的な上水道計画にのりだしました。

昭和30年代に入り、千里ニュータウンの建設開始などベッドタウン化により人口が急激に増加し、さらに生活様式の変化などにより水需要も加速的に増加しました。そこで、6次にわたる大規模な拡張工事を展開し、施設や管路を整備するとともに、昭和35年(1960年)には大阪府営水道から受水を開始し、増加する水需要への対応に努めました。

昭和50年代後半以降、施設整備を中心とした維持管理の時代へと移行する中、水源である淀川表流水の水質悪化の対策として、平成9年(1997年)に泉浄水所において高度浄水処理を導入しました。

現在は自己水の有効利用と安定給水をはかるため、浄配水施設の整備、更新や耐震化工事を重点に進めています。

第2章 事業の沿革と概要



#### ※簡易水道

計画給水人口が5,000人以下である水道事業。施設が簡易ということではなく、計画給水人口の規模が小さいものを簡易と規定したものである。

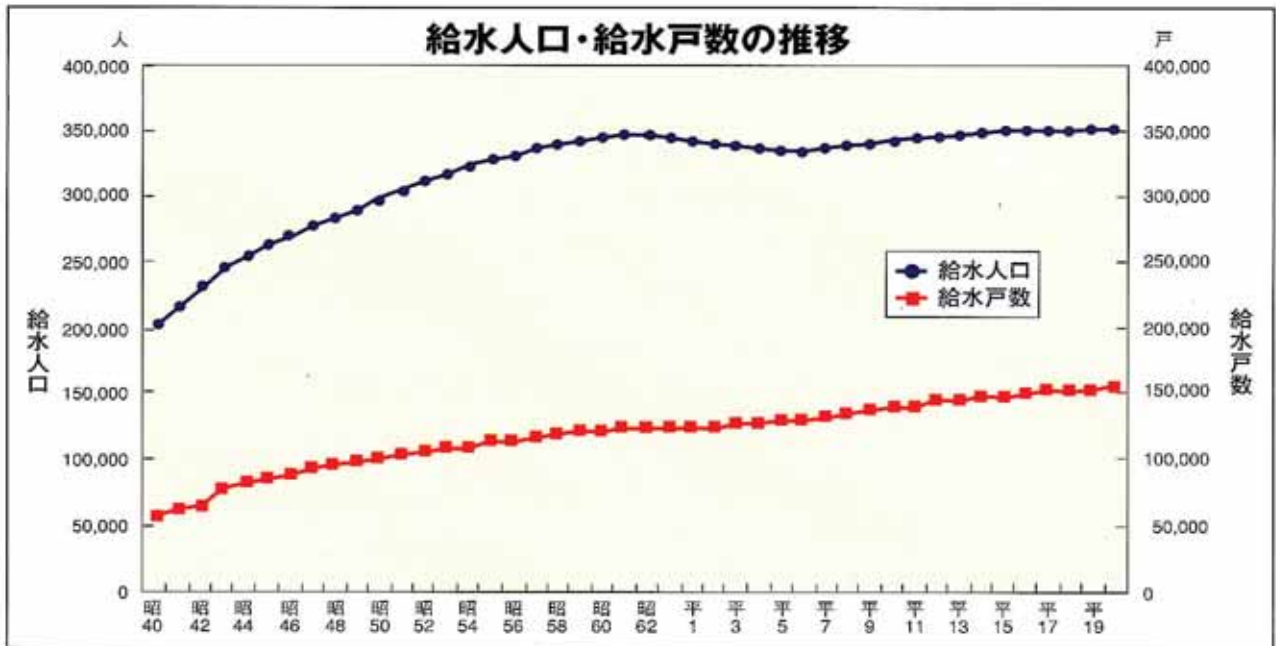


年	水道事業の沿革
明治41年(1908年)	吹田町誕生
昭和 2年(1927年)	町営水道給水開始
昭和15年(1940年)	吹田市制施行
昭和23年(1948年)	第1次拡張事業着工(昭和25年完成)
昭和24年(1949年)	第2次拡張事業着工(昭和31年完成)
昭和26年(1951年)	片山浄水所給水開始
昭和30年(1955年)	山田村合併
昭和32年(1957年)	第3次拡張事業着工(昭和37年完成)
昭和33年(1958年)	山田地区給水開始
昭和36年(1961年)	大阪府営水道より受水開始
昭和36年(1961年)	第4次拡張事業着工(昭和40年完成)
昭和37年(1962年)	千里ニュータウンへ大阪府営水道より送水開始
昭和38年(1963年)	泉浄水所第1期工事完成
昭和40年(1965年)	第5次拡張事業着工(昭和45年完成)
昭和41年(1966年)	淀川表流水受水開始 下水道使用料同時徴収
昭和42年(1967年)	泉浄水所第2期工事完成 水道サービス公社発足
昭和44年(1969年)	水道部本庁舎完成 第6次拡張事業着工
昭和45年(1970年)	料金調定に電算導入
昭和47年(1972年)	隔月検針・隔月徴収開始 加入金制度施行
昭和48年(1973年)	開発負担金制度施行
昭和49年(1974年)	給水モニター設置
昭和51年(1976年)	水道料金に通増制導入
昭和54年(1979年)	第1期上水道施設等整備事業着工(昭和60年完成)
昭和60年(1985年)	第2期上水道施設等整備事業着工(平成5年完成)
平成元年(1989年)	3階直結給水開始
平成 5年(1993年)	第6次拡張事業第3回変更着工(平成16年完成)
平成 6年(1994年)	庁舎第1別館竣工 高度浄水処理工事着工
平成 7年(1995年)	千里山浄水所廃止
平成 8年(1996年)	5階直結給水開始 水道事業経営審議会発足
平成 9年(1997年)	高度浄水処理水供給開始
平成10年(1998年)	指定給水装置工事事業者制度改正
平成13年(2001年)	水道料金等に消費税転嫁
平成15年(2003年)	直結給水を10階程度まで適用拡大
平成15年(2003年)	マッピングシステム稼働
平成16年(2004年)	第1次上水道施設等整備事業着工
平成17年(2005年)	水道災害サポーター制度、水道モニター制度発足
平成18年(2006年)	水道部中期経営計画策定
平成19年(2007年)	水道料金3.36%値下げ 口座振替割引制度導入
平成19年(2007年)	新料金システム導入

## 2-2 事業の規模

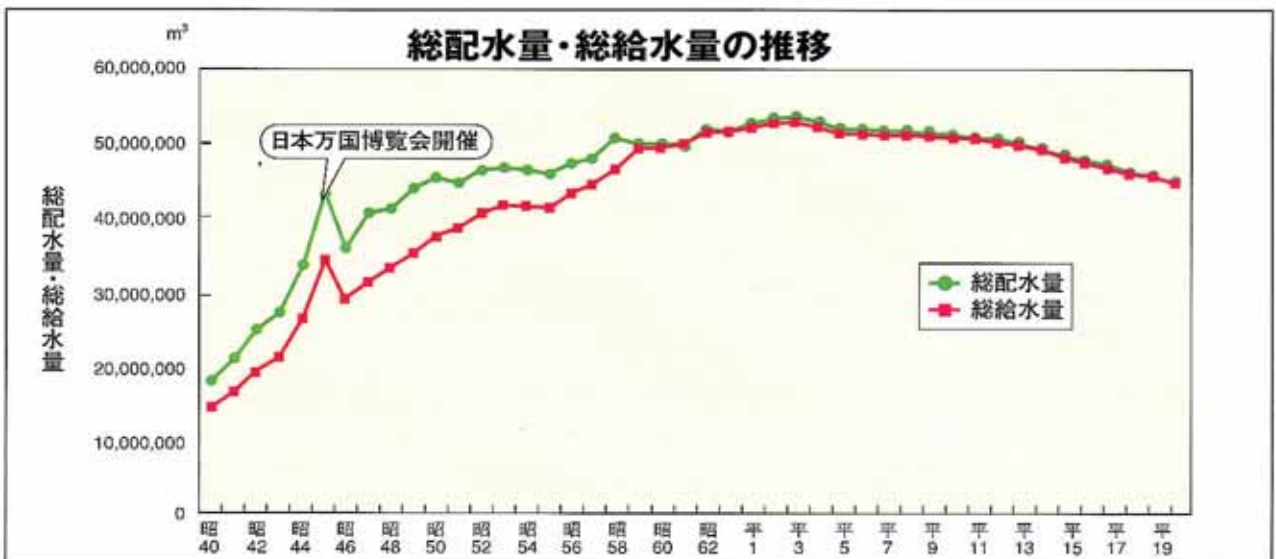
### ■給水人口・給水戸数

給水人口は、昭和61年度(1986年度)まで伸び続け、一旦停滞したのち、平成5年度(1993年度)以降、再び微増しています。給水戸数については、核家族化、少子・単身化に伴い、給水人口以上の増加傾向にあります。



### ■総配水量※・総給水量※

総配水量、総給水量ともに、平成3年度(1991年度)以降減少し続けており、総給水量は平成20年度(2008年度)には約14%の減少となっています。



#### ※配水量

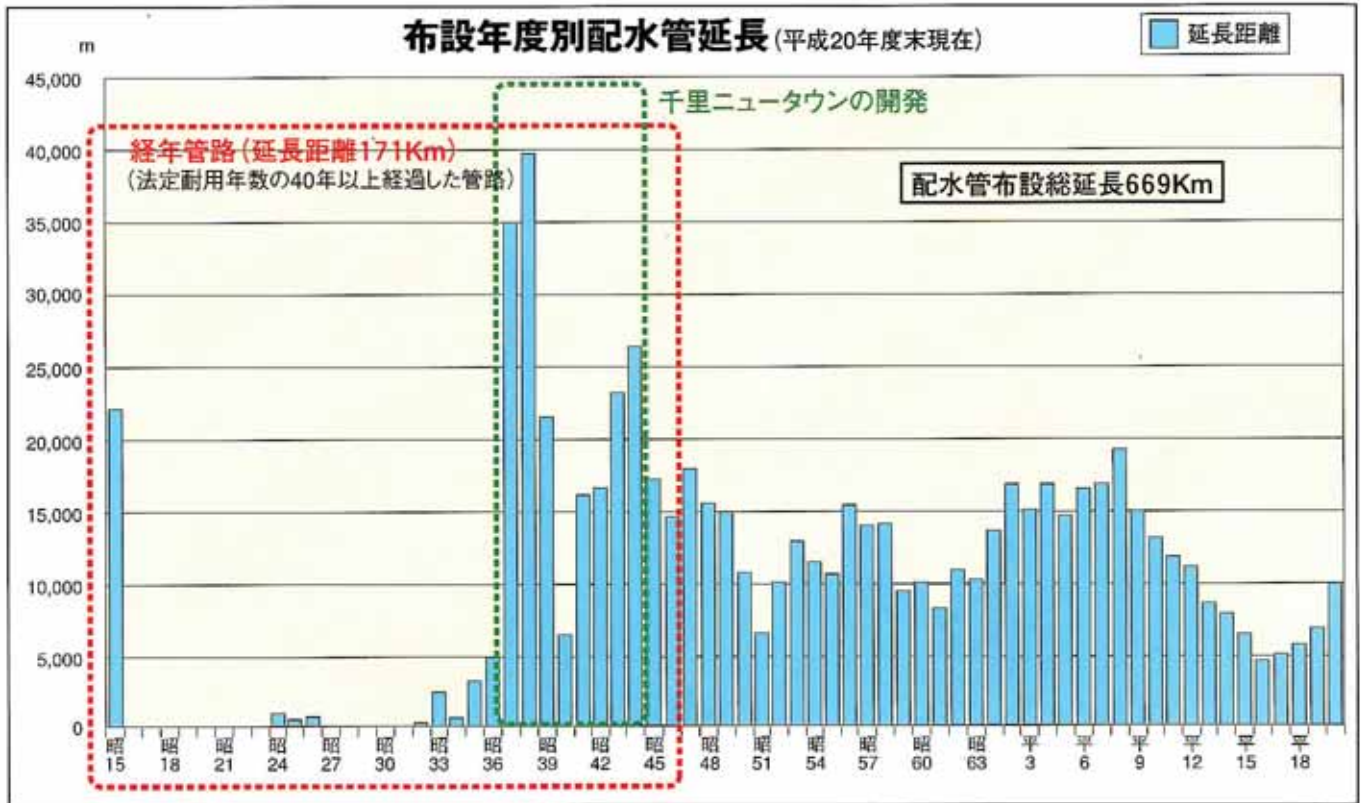
配水池から配水管に送り出された水量のこと。

#### ※給水量

給水区域に対して、お客さまに供給する水量のこと。

## ■配水管総延長

建設拡張の時代から維持管理の時代に移行し、配水管延長の伸びはゆるやかになっています。

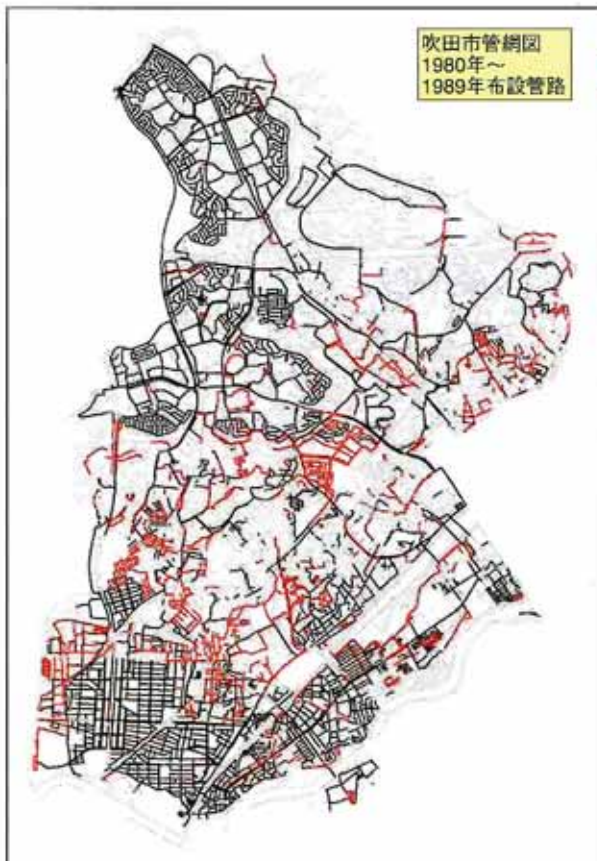
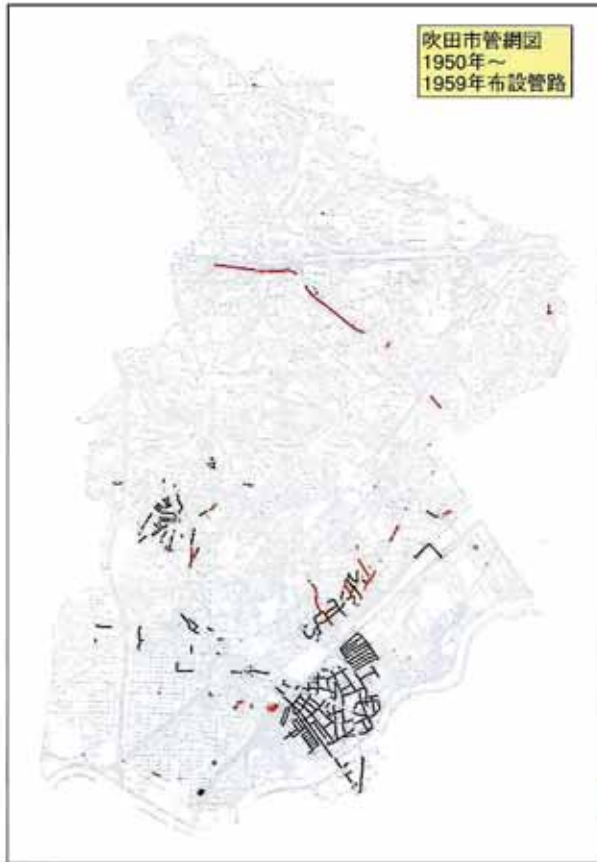


### 平成20年度 (2008年度) における事業規模

給水人口	351,651 人
給水戸数	154,294 戸
総配水量	42,935,368 m <sup>3</sup>
総給水量	42,399,267 m <sup>3</sup>
有収水量	41,544,837 m <sup>3</sup>
一日平均配水量	117,631 m <sup>3</sup>
一日最大配水量	135,421 m <sup>3</sup>
有収率	96.8 %
送配水管延長	689,812 m



## 市内配水管状況の変遷

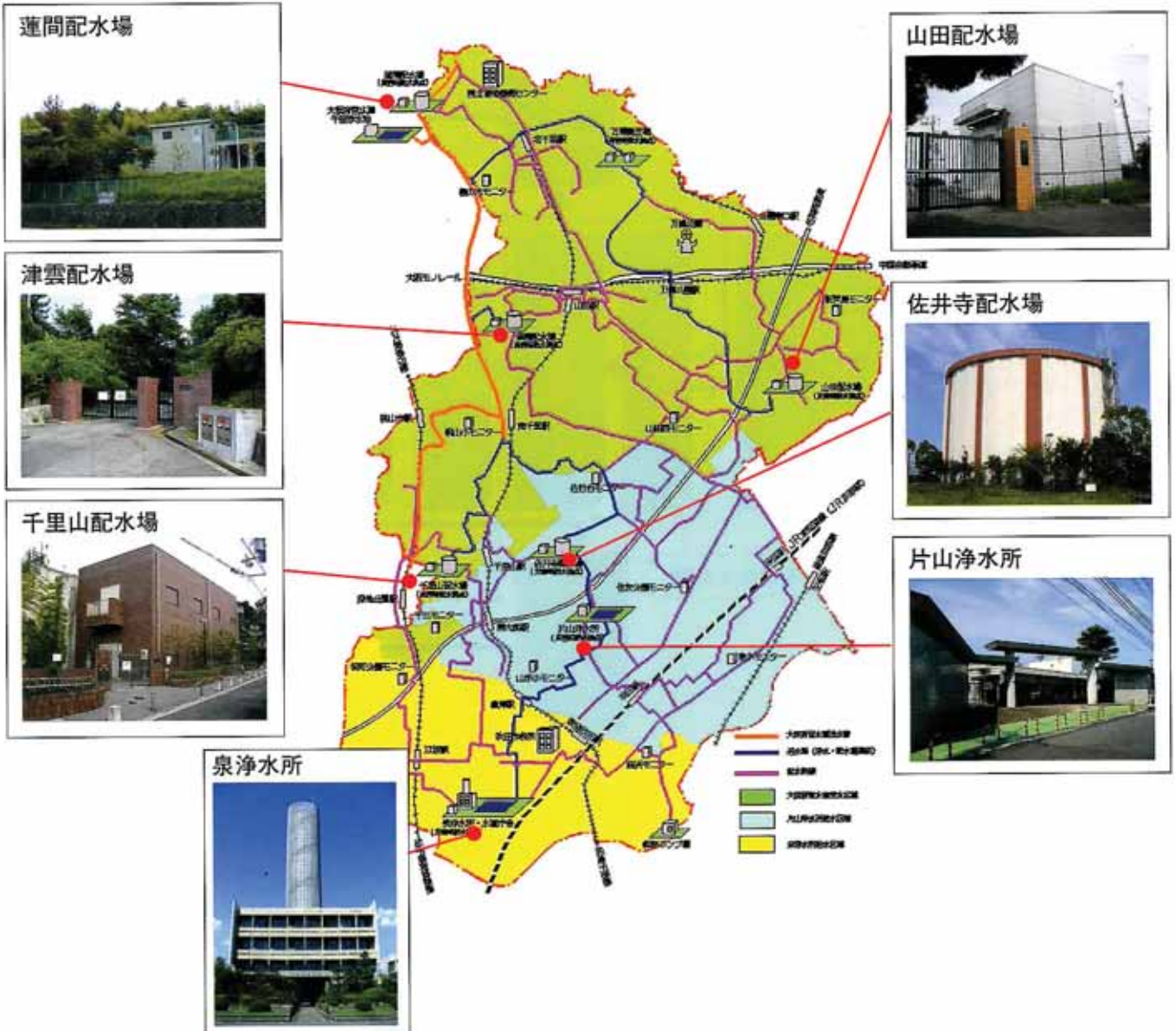




## 2-3 主な施設の概要

### ■主な施設の概要

本市には淀川表流水と地下水を浄水処理する泉浄水所と、地下水を浄水処理する片山浄水所の2つの浄水所があります。また、主に大阪府営水道水を受けるための配水池を有する5つの配水場があります。



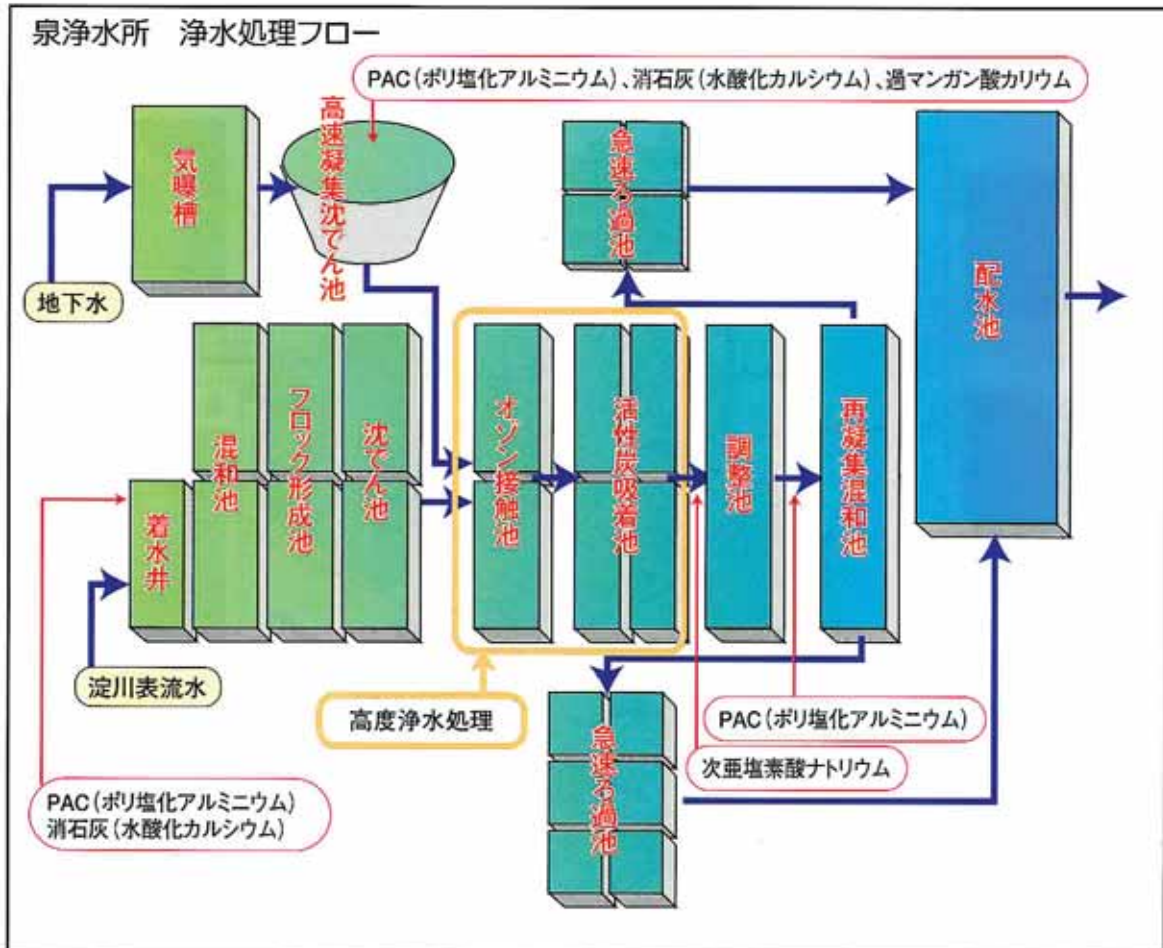
施設名	建設年度	施設能力 $m^3$ /日	配水池容量 $m^3$	所在地
泉浄水所	昭和38年度	49,240	9,933	南吹田3-3-60
片山浄水所	昭和26年度	12,740	20,000	朝日が丘町25-1
蓮間配水場	昭和37年度	—	6,000	青山台3-46-1
津雲配水場	昭和37年度	—	12,000	津雲台4-5-3
山田配水場	昭和36年度	—	1,680	千里丘西15-15
佐井寺配水場	平成 2年度	—	9,000	千里山東4-13-9
千里山配水場	平成11年度	—	3,000	千里山西4-28-3

平成21年(2009年)9月末現在

## 2-4 浄水処理

### ■泉浄水所

地下水と淀川表流水を浄水処理しています。また、平成9年(1997年)には高度浄水処理を導入しました。



### ■片山浄水所

地下水を浄水処理しています。

